

「セダンの価値は大きさに決まる」—— そんな既成概念を捨て去るところから始めました

コンパクトなセダンにおいて、セダンファンの方が求める広さやデザイン、質感、そして走りなどを高めるのは、大きなセダン以上に様々なハードルが存在します。しかし本来、クルマの大きさを問わず、お客様が「セダン」に求めるものは同じはず。

よって、「そんなに広くなくても」「それは付いていなくても」「そこまでこだわらなくても」
そういった言葉はチームの中では禁句にしました。

「セダンの価値は大きさに決まる」という既成概念を捨て去り、各分野の
スタッフたちとともに、決して妥協することなく開発に取り組んできたのです。

外から見て、乗り込んで、走り出して、毎日の暮らしの中で使って
これまで多くのセダンを乗り継いできた方が、心から満足し、
誇りを持って乗り続けることができる——。

そんな、コンパクトセダンの新しい時代が、この「グレイス」から始まるものと自信を持っています。



グレイス 開発責任者

広瀬 敏和

(株)本田技術研究所 四輪R&Dセンター 主任研究員

6代目シビック、3代目アコードワゴンをはじめ、多くの機種のシート、インテリア設計を担当。1997年より5年間、Honda R&D Americasで初代MDXなどの北米機種設計開発に携わる。帰国後、2代目フィット、フィットハイブリッドのインテリアPLを担当し、今回グレイスのLPLに着任。趣味は自転車、D.I.Y。愛車は自転車「Specialized クロスバイク」。